

世界のオレンジ市場(要約部分抜粋・一部補足)

FreshPlaza 2025年9月12日

イタリアでは、6月にバレンシアオレンジのシーズンが終了した。売上は安定し、価格は1ユーロ/kg近辺で推移した。次のシーズンの見通しとしては、タロッコ種のブラッドオレンジの生産量が20～30%減少する可能性があると考えられている。プーリア州では、春の天候不順及び水不足の影響により、全体的な収量が約30%減少し、供給面での圧力が高まっている。

スペインでは7月にオレンジシーズンを終えたが、大雨の影響により生産量が減少し、品質にも課題が生じた。一方、エジプトからの供給が減少したことで需要は堅調に推移した。2025/26年度シーズンの当初予測では全般的に昨年並みの収穫が見込まれているが、アンダルシア州では生産量が減少する一方、果実サイズは大きくなると予想されている。スペイン産ナベリーナオレンジは10月末から出荷される見込みである。

オランダでは、南アフリカ産の豊作により市場が飽和状態となっている。小玉は搾汁機にかけられることもあり、価格及び売上は良好で、市場は比較的安定して推移すると見込まれている。一方、中玉の果実は価格面での圧力を受けており、在庫の消化のための販促活動が不可欠である。

ドイツでは、エジプト産と南アフリカ産からの遅い移行を経てジンバブエ産オレンジが徐々に市場シェアを拡大しており、売上は安定している。ある輸入業者は、「南アフリカに比べてジンバブエのオレンジ栽培面積は小さいが、最初の4年間で市場シェアを約3分の1まで拡大することができた」と述べている。

フランスでは、南アフリカ産オレンジの品質の高さに支えられ、販売は安定している。ただし、事業者は価格設定に慎重な姿勢を維持している。10月中旬以降はスペイン産が主導権を握る見込みである。現時点では確定的なことは言えないが、天候次第ではあるものの、今シーズンは供給量が多くなる可能性がある。

北米では、関税の影響により貿易が混乱しているが、価格は上昇傾向にあり、カリフォルニア州及びフロリダ州では新シーズンに向けた準備が進められている。今月後半にはフロリダ州で収穫が始まる予定であり、ハリケーンの被害を受けた昨年と比べて収量及び品質の向上が期待されている。10月に入ってチリ産の輸入が減り始めると、カリフォルニア州のネーブルオレンジのシーズンが始まる。

南アフリカは記録的な輸出量を達成しており、既に前年を数百万箱上回っている。当初、エジプトのバレンシアシーズンが非常に早く終了すると予想されていたが、実際には8月まで続いた。米国市場では(関税により)価格が突然30%高騰したため、オレンジとソフト柑橘類が米国向けに出荷されなくなり、南アフリカ産オレンジが他市場に大量に流入する結果となった。

エジプトは加工需要の増加に伴い、生鮮品の輸出が減少している。広く報じられている通り、同国の加工業、特にオレンジ濃縮果汁の生産が急速に発展しており、生果の輸出可能量が大幅に減少している。来シーズンに向けて、栽培面積及び総生産量が増加するかどうかは依然不透明であるが、多くの輸出業者が生産・出荷施設の拡張を発表している。

モロッコは干ばつの影響により深刻な供給の減少に直面している。現在の栽培面積は、干ばつ前の平均的なシーズンと比較して50%以下にまで減少している。あるモロッコの生産者は、降雨状況が改善された場合でも、通常の生産量に回復するには少なくとも3～4年を要すると見込んでいる。

インドではモンスーンによる豪雨の中、高い輸入コストと需要の低迷に苦慮している。10月には国内産ナグプールオレンジの出荷が始まると見込まれ、輸入量は徐々に減少すると見られる。

執筆者: ステファン・ヤンセン・ファン・ニューウェンホイゼン

(記事冒頭の要約を元に、一部本文から補足しました。)